齊藤班

齊藤千早・和泉明日香・中野薫
・本多克敏・森川直也

〇準備に関する反省と感想

反省すべきことは、私たちのグループは準備に取り掛かるのが遅かったことだ。最初のプレゼン予行では形にすることができなかった。そこから全員に危機感が生まれ、授業以外の時間にもできる限り集まり作業を進めていった。次に思うことは、やはり作業の偏りがあったことだ。もっと積極的に集まってテーマについて話し合っていればプレゼン当日ぎりぎりまで作業をしなくてすんだと思う。

公共投資という大きい枠から経済格差に関する問題を考えていくことはとても漠然としていてまとめるのに苦労した。立論の流れも話し合うたびに少しずつ直していくことになり、全体の時間をうまく使えていなかったと感じた。

〇当日の報告内容とそれに対する質疑の概要

個人間や地域間の格差の拡大が問題になっている現在に、格差縮小を目標とした対策として公共投資を拡大すべきか、拡大するべきではないか。私たちのグループは、「経済格差を縮小するために、公共投資を拡大すべきか」について「反対」の立場で立論していくことになった。その理由として二つ挙げられる。

・　公共投資の無駄使い

公共投資のほとんどが建設関係に使われている事実、公共投資が地域経済に与えている影響を述べた。そして、公共投資は地方の建設業以外の産業振興に貢献していないことを示した。

・　現在の政策の見直しの必要性

最近のニュースでもよく取り上げられている官製談合の不祥事を述べた。現在の財政政策や制度ではすでに立ち行かなくなってきている現状も示し、新しい制度の模索を提示した。

それらの改善策として、公共投資の効率化、新しい制度として税源移譲(道州制)を示した。これらを行うことで地方は活性化され、無駄な公共投資は減少し、結果として公共投資は縮小するだろう。そして、地方活性化策として税源移譲を行えば、地方はそれぞれの強みを生かした経済を作り上げていくだろう。画一的な政策は地方を衰退させるだけであるため、経済格差を縮小するために公共投資を拡大すべきではない、と主張した。

質疑の内容

公共投資の縮小は格差の拡大を招いているのでは？

この問いに対して、主に建設関係に使われている公共投資ではなく、私たちの主張である税源移譲を行えば、地方に自由に使える資金が増えて、地方それぞれの政策によって格差を解決していくことが可能だと考えられると述べた。今までの公共投資では問題があり、ただ公共投資を拡大することは時代に逆行していると考えられる。

〇合同ゼミにおける感想と反省

違うゼミや他大学の学生との交流はとても勉強になった。論点のずれは残念だったが、一つの

テーマに対して別の視点で考えていた相手側の意見はこちら側の視野を広げるいい機会になり、刺激を与えてもらえた。ただ、プレゼン方法が異なっていたため視覚的な資料の不足が感じられた。プレゼン方法を統一すれば、もっと双方の比較ができたと思う。

プレゼンの反省としては、やはり取り掛かるのが遅かったため、ぎりぎりまで作業がかかってしまったことがあげられる。そのため、発表の練習や時間配分が上手くいかず、聞き手側に負担をかけてしまったと思う。作業の配分もうまくできず周りに負担もかけてしまった。また、相手側とは論点がずれていることで質疑の時間ではかみ合わない時が多々あり、理解が得られず残念だった。

しかし、ディベートでは全員で話し合い、それぞれがきちんと意見を述べられたことは良かった。5 人で一つのことを成し遂げたことはとても勉強になり、それぞれに得るものがあったと思う。

（文責　齊藤）